



[http://www/komakusakai.com]

令和6年1月号 ≪252号≫

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに 新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、令和6年の新春の挨拶を書くにあたり、過去3年の挨拶を読み 返してみました。当然ですがすべて新型コロナウイルス感染症のことが 話の中心になっていました。ただ年を追うごとに次第に新型コロナを 克服している様子がうかがえ、昨年の挨拶では「大変不謹慎な言い方 かもしれませんが、コロナが次第に日常になってきていることを 感じます。過去の歴史を紐解くと、ペストやコレラ・スペイン風邪など 世界的な大流行は大体3年でめどがついています。今回のコロナ禍も ひょっとすると大きな峠を越えたのかもしれません。|と書いています。 それから1年が経ち、実際のところ新型コロナ感染症は日常になり、 今ではインフルエンザと同列に扱われるようになりました。まさに 「歴史は繰り返す」を体感することとなりました。

ではこれからのコロナ後の世界はどうなるのでしょう?ペストや スペイン風邪のその後はどのようになったでしょう、もう一度歴史を 紐解いてみます。ペストは中世ヨーロッパで流行り、病魔は当時の人口 を20-30%も減少させるという激しいものでした。その流行には国王や 教会と言う当時の権力も無力であり、その権力を失墜させるのに十分

なものでした。このことが遠因となりルネッサンス文化が花開き、近代 ヨーロッパへの変革の扉となりました。スペイン風邪は1918年から 3年間にわたり世界的に流行しました。こちらも当時の人口の1-5%の 人々が亡くなっています。スペイン風邪の流行は第1次世界大戦の終戦 を早め、1920年代の好景気の時代をもたらしました。自動車・ラジオ・ 映画などの新技術が普及し華やかな時代を迎えたのです。リンドバーグ が飛行機で太平洋を単独横断しもてはやされたのもこの頃です。

どちらの場合もパンデミック後に華やかな好景気の時代を迎えている のです。私は今回も例外ではなく、日本でも好景気の時代が来るのでは ないかと思っています。ただ私はその好景気をもたらした理由に注目 したいと思います。どちらもパンデミックが社会の変化を引き起こし、 その結果として好景気がもたらされているということです。

今まさに、私たちはパンデミックがもたらすその大きな変化の中に いるわけです。新型コロナ感染症は私たちの生活様式を大きく 変えました。働き方しかり、買い物の仕方しかり。「あまり変わって ないよ」と思われる方も多いかもしれませんが、すでにその変化が 日常になって気が付いていないだけだと思います。そしてこの変化が 社会を変えていき、ひいては医院や施設の今後の在り方にも大きな 影響をもたらすでしょう。こまくさ会も将来を見据え、 職員一丸となってその変化に対応していく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 秋山 正史



年末の餅つき大会と門松作り(3階)



今年はコロナが5類移行となり、餅つきができることとなりました。 12月の27日に餅つきを、28日に門松づくりをしました。

メンバーさんたちは「久しぶりに餅つきができて嬉しいわ~」

「私が餅取りするよ!」と腕まくりをする I さん。

杵と臼と白い餅、そして皆さん輝いていました。

河口医院の玄関に飾る門松作りでは、竹を切り、

新聞紙を丸め土台作りをし、竹を立て、松や南天葉牡丹の位置を 試行錯誤しながら皆さんで飾りました。

皆で力を合わせお正月準備ができメンバーさんは笑顔いっぱいでした。



初詣(2階)



年明け最初のデイケア1月4日は玉比咩神社へ 初詣に行ってきました。皆さんお賽銭とお米をお供えし、 健康を祈願しながら楽しく お参りしました。



初詣 (3階)



1月10日に玉比咩神社へ行きました。

T さんは「昔は家族で毎年来てたよ! | S さんは「若い頃、ここの近所に 住んどった」と皆さん笑顔でお参り。お米をお供えしながら 「今年も元気で過ごせますように!」と手を合わせました。 皆様が良い1年になりますように!



鏡開き(2 階)



1月11日、鏡開きということで年末に餅つきをしたお餅でぜんざいを 作って皆さんで食べました。ぜんざいが好きな方が大勢居られるので 満面の笑みで無病息災を願い美味しくいただきました。



認知症カフェ日程のお知らせ



令和6年2月13日(火)

午前:玉野市認知症ケアパス

午後:ピンポンを使ったゲーム

お気軽にご参加ください。